

休眠預金等活用事業



ソーシャルビジネス循環モデル地域形成事業 成果報告会 & 交流会

ソーシャルビジネス 新規事業のブレイクスルー

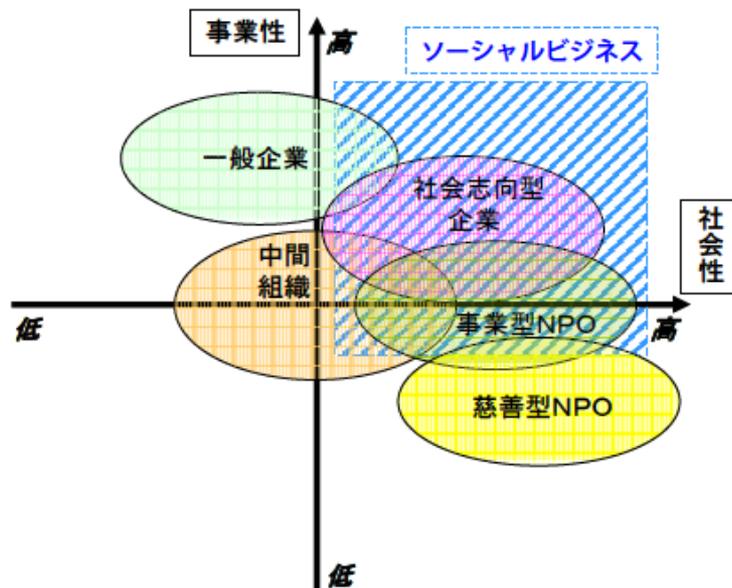
2024年3月14日

九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム KSBC
(公益財団法人九州経済調査協会 / 一般社団法人ユヌス・ジャパン)

ソーシャルビジネスとは

- ・ ソーシャルビジネスとは、社会課題解決を目的にした事業
- ・ 社会性、事業性、革新性の3要素を兼ね備えた事業
- ・ 持続可能性の担保を目指しているもしくは担保できている事業

ソーシャルビジネスの定義



出典) ソーシャルビジネス研究会『ソーシャルビジネス研究会報告書』2008年4月より引用

ユヌスソーシャルビジネスの7原則

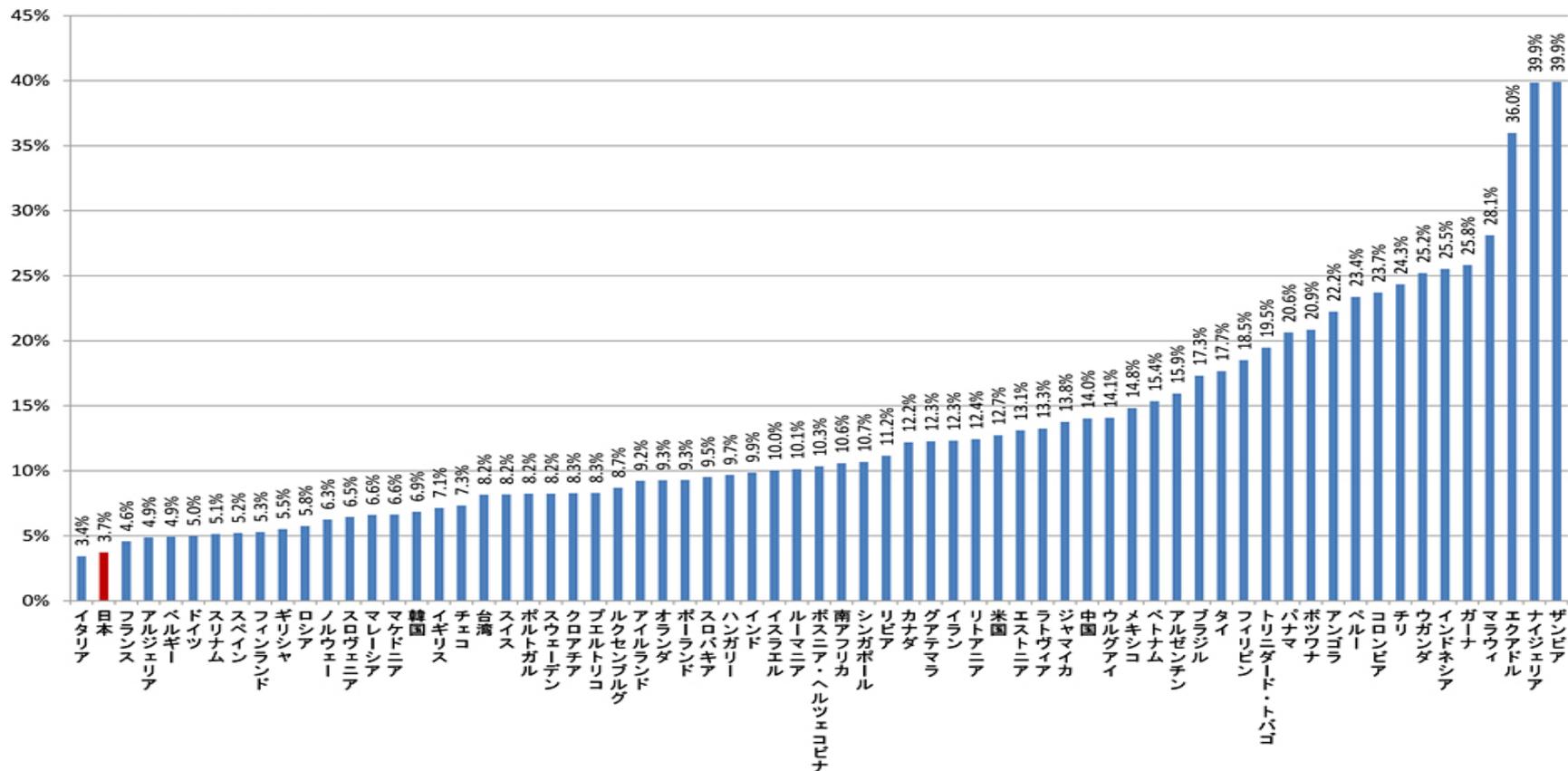
1. ユヌス・ソーシャル・ビジネスの目的は、利益の最大化ではなく、貧困、教育、環境等の社会問題を解決すること。
2. 経済的な持続可能性を実現すること。
3. 投資家は投資額までは回収し、それを上回る配当は受けないこと。
4. 投資の元本回収以降に生じた利益は、社員の福利厚生の充実やさらなるソーシャル・ビジネス、自社に再投資されること。
5. ジェンダーと環境へ配慮すること。
6. 雇用する社員にとってよい労働環境を保つこと
7. 楽しみながら。

出典) 一般社団法人ユヌス・ジャパンWEBサイトより引用

社会課題：ソーシャルビジネスの現状について

・極めて低いわが国の社会起業活動率

各国の社会起業活動率(TEA:2013年)



注) GEMとは、「Global Entrepreneurship Monitor」(グローバル・アントレプレナーシップ・モニター)の略。米国バブソン大学と英国ロンドン大学ビジネススクールのプロジェクトチームが実施。

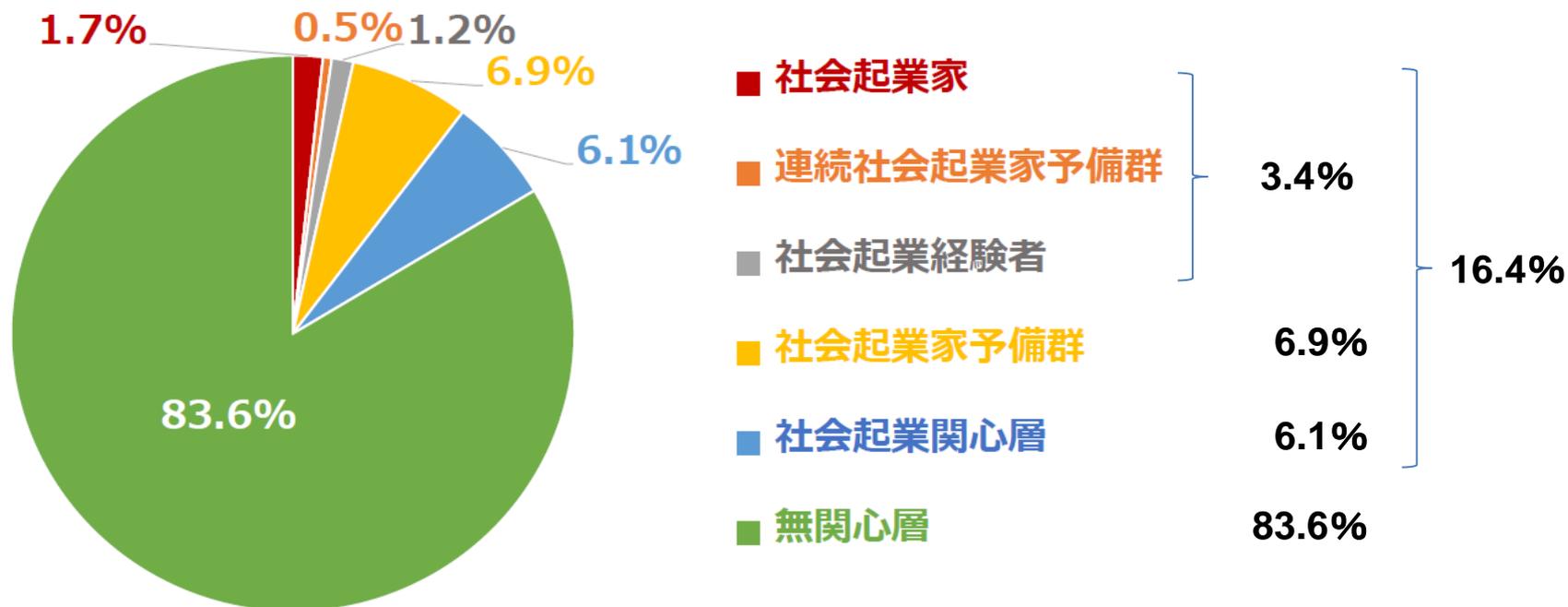
注) TEAとは、総合起業活動指数(Total Early-Stage Entrepreneurial Activity)

出典) 経済産業省・VEC『平成25年度起業家精神に関する調査(GEM)』2014年

社会課題：ソーシャルビジネスの現状について

- ・ 社会起業家ならびに社会起業関心層は16.4%
- ・ 大半を占める無関心層の社会起業への関心を高めて行くことが必要

日本の社会起業家の状況(2018年)



N = 5000

- 全国18歳以上80歳未満の男女個人を対象
- 性別・年代・都道府県で人口構成比で割付回収

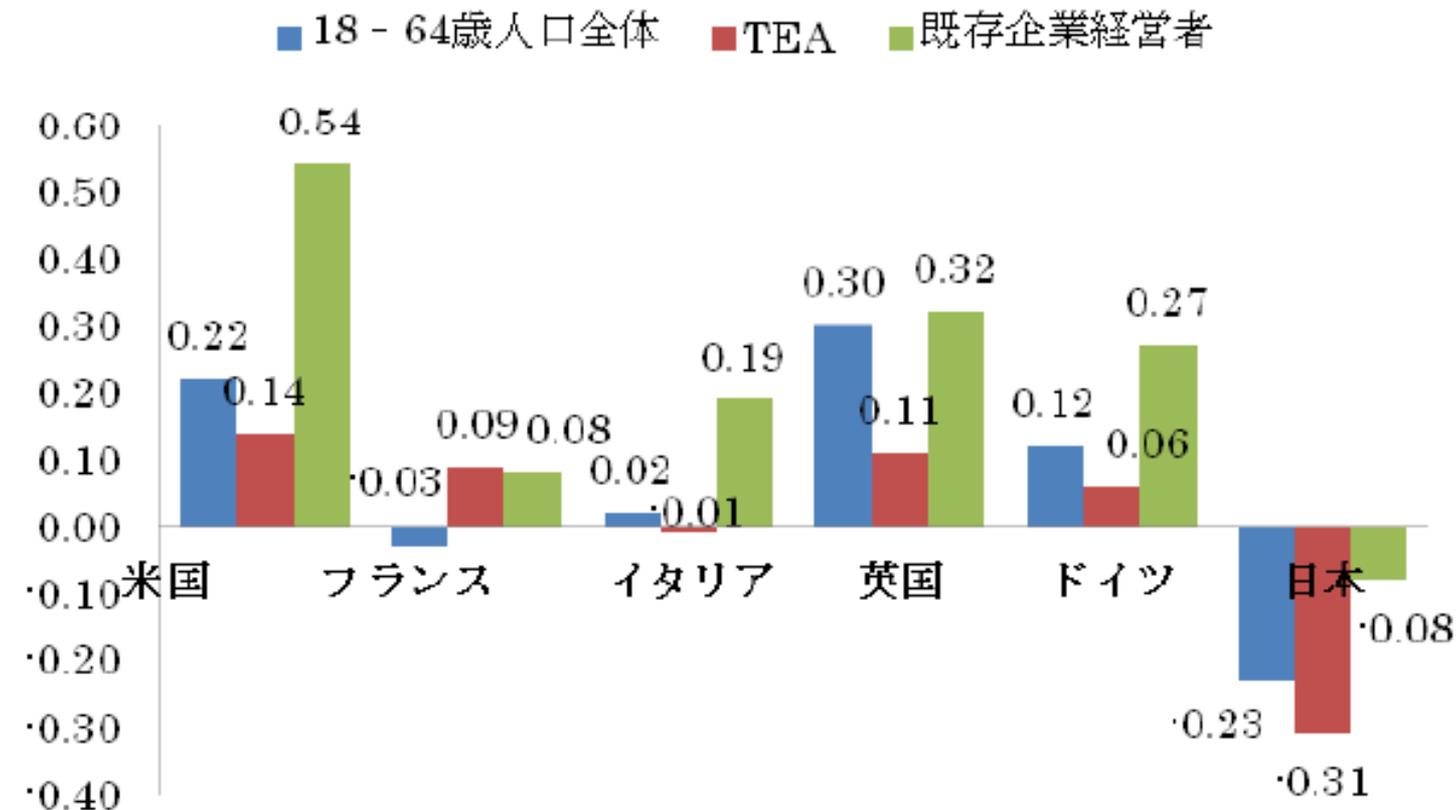
注) GEM調査に準拠。ウェブアンケート

出典) 東京大学中村寛樹研究室「ソーシャル・ビジネスの認知及び需要等調査」2019年

社会課題：ソーシャルビジネスの現状について

- ・ 極めて低いわが国の経営者の人生満足尺度。なかでもTEAの低さは突出

人生に関する満足度尺度の国際比較(2013年)



注1) TEAとは、総合起業活動指数(Total Early-Stage Entrepreneurial Activity)

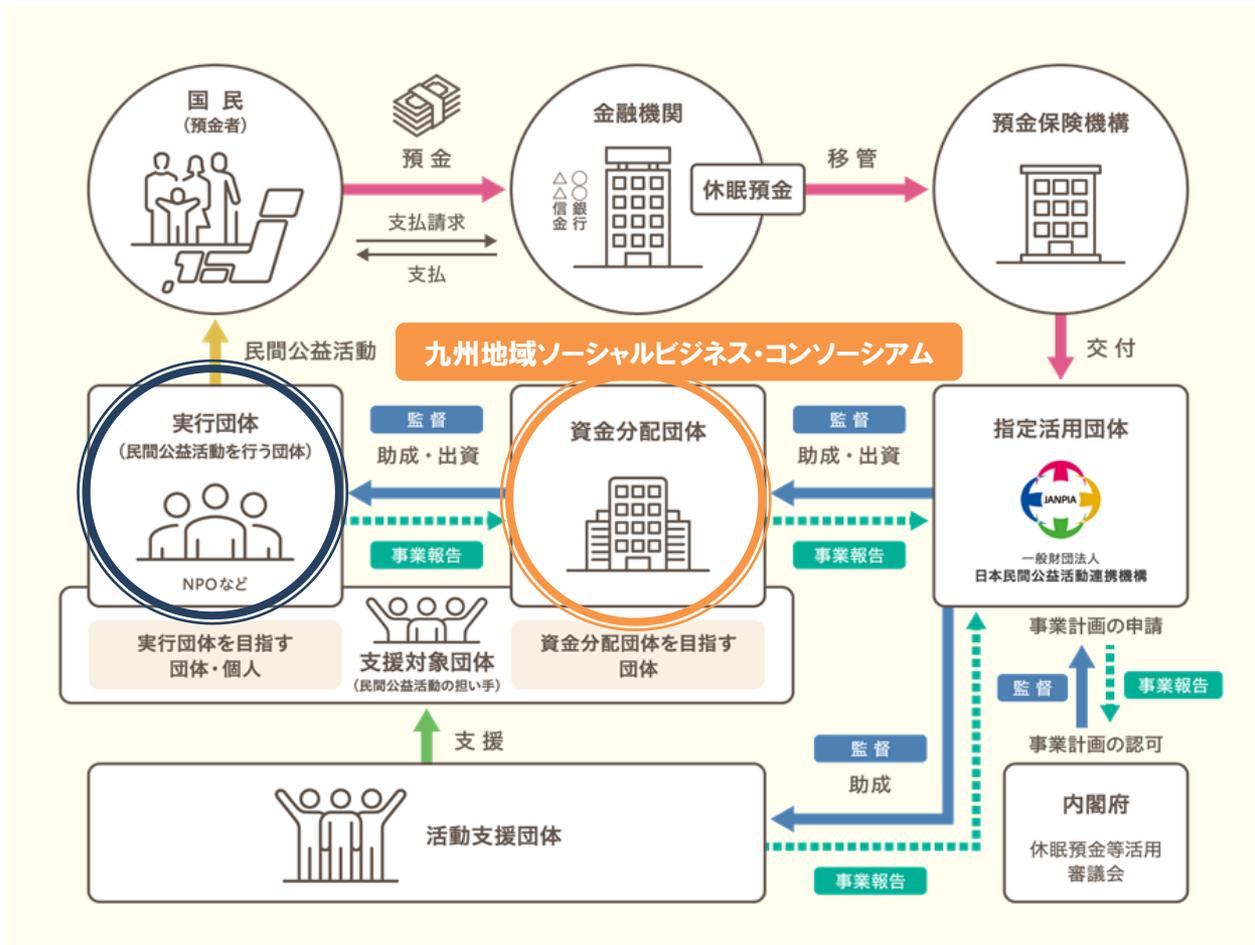
注2) GEMとは、「Global Entrepreneurship Monitor」(グローバル・アントレプレナーシップ・モニター)の略。米国バブソン大学と英国ロンドン大学ビジネススクールのプロジェクトチームが実施。

出典) 経済産業省・VEC『平成25年度起業家精神に関する調査(GEM)』2014年

社会課題解決を ソーシャルビジネスで

休眠預金等活用制度のスキーム

- ・「休眠預金活用法（平成28年法律第101号）」に基づき、休眠預金を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度
- ・2019年度から制度スタート、2023年度末に制度改正あり



休眠預金等活用制度通常枠の4つの事業(2020年度当時)

草の根活動支援事業

- 全国各地で地域に根差して従来から活動を展開している活動の拡大、成果の向上を目指す。
- 地域や分野ごとの多様性に応じて本制度が十分に活用されるように、全国枠と地域枠に分けて選定。

- 各団体の助成額：最大1億円
- 期間：最大3年間 ● 選定団体数の目安：10～20団体

イノベーション企画支援事業

- 従来を超えた革新的な手法の開発、普及・実装に挑戦することにより社会における大きな変革(ソーシャル・イノベーション)の創出を目指す(例：技術を活用した新手法、コレクティブ・インパクトの推進等)。
- 社会的インパクトの最大化を重視。

- 各団体の助成額：最大2億円
- 期間：最大3年間 ● 選定団体数の目安：4～6団体

ソーシャルビジネス形成支援事業

- 革新的事業で社会の諸課題の解決を図るビジネスモデルの創出と推進を目指す。
- 社会的インパクトと収益性を両立する事業のモデルの確立を重視。

- 各団体の助成額：最大2億円
- 期間：最大3年間 ● 選定団体数の目安：1～3団体

災害支援事業

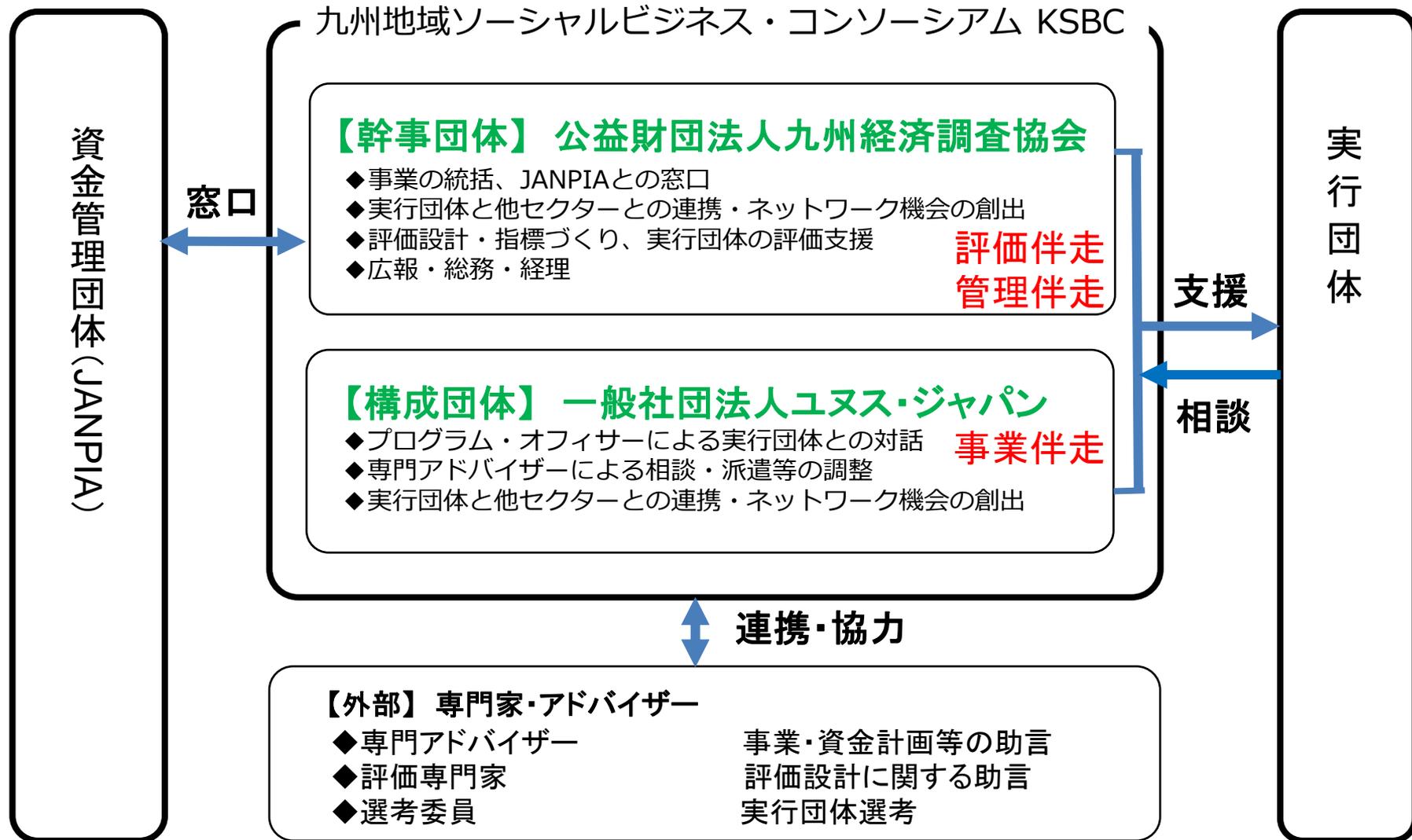
- 大規模な自然災害等により、長期にわたり困難を強いられる地域とその住民に対する支援活動を実施するNPO等を支援する団体を助成。

※災害支援事業は3つのカテゴリを設定。
詳細は公募要領を参照。

- 各団体の助成額：最大2億円
- 期間：最大3年間 ● 選定団体数の目安：1～3団体

出典)日本民間公益活動連携機構(JANPIA)資料

九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム(KSBC)について



ソーシャルビジネス循環モデル地域形成事業の概要

- ・ 目的：

国連持続可能な開発目標（SDGs）に基づく社会の実現に向けて、ソーシャルビジネスを通じた社会課題解決に取り組む組織・団体の**自立的・持続可能な事業の成長**及び**パートナーの開拓・拡大**を支援し、あわせてソーシャルビジネスによる**新規起業の誘発**、多様なセクター（公共機関・経済団体・教育研究機関等）間の**連携・協働**により、九州地域のソーシャルビジネス・ネットワークの構築をめざす。

- ・ 2020年通常枠：ソーシャルビジネス形成支援事業枠（全国唯一採択）
- ・ 実施期間：2020年11月～2024年3月
- ・ 助成期間：3年5カ月間
- ・ 対象地域：九州地域（九州・沖縄・山口）
- ・ 対象グループ：ソーシャルビジネスに意欲的な個人・団体（5団体）
- ・ 優先的に解決すべき社会課題：
 - 若者・雇用分野を中心に設定
 - ソーシャルビジネスに関する雇用創出と人材育成
 - 地域におけるSociety5.0の推進支援

ソーシャルビジネス循環モデル地域形成事業の概要

・事業の概要：

社会課題解決に取り組む組織の支援

ソーシャルビジネスの新規起業の掘り起こし

産学官の多様なセクター間の連携と協働の促進

ソーシャルビジネス・ネットワーク組織の構築

ソーシャルビジネスに関する事例や手法の集積と地域伴走支援の確立

ソーシャルインパクトの価値の面的共有による先進モデル地域の形成

・活動内容：

活動1：新製品・サービス開発および既存事業の改善による自律的・持続可能な事業の構築

→ニーズ調査、専門家派遣、パートナー紹介等

活動2：ソーシャルビジネス事業者のネットワーク拡大と起業候補の掘り起こし

→講演会・セミナー、各種団体への働きかけ

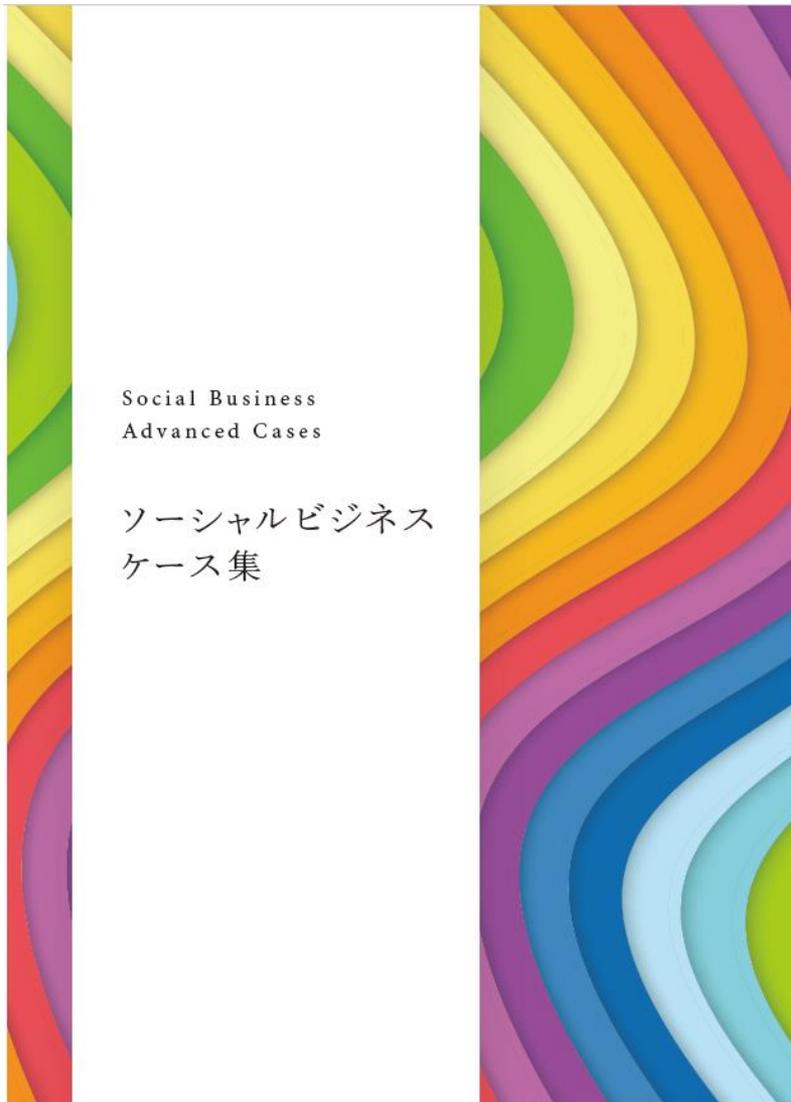
活動3：社会的インパクト評価の理解と活用

→実行団体間・多様なセクター間のネットワーク形成

→九州地域でのソーシャルビジネスネットワークの構築・共有

調査結果等を「九州経済調査月報2024年4月号：ソーシャルビジネス特集」で掲載予定。

ソーシャルビジネスケース集について



Social Business
Advanced Cases

ソーシャルビジネス
ケース集

ソーシャルビジネスケース集
ウェブサイト公開ページ

URL

[https://www.yunusjapan.jp/
cases2023.html](https://www.yunusjapan.jp/cases2023.html)

QRコード



実行団体5団体の新たなソーシャルビジネスの事業概要

実行団体	所在地	事業名	事業内容・事業実績
コ・ワーケーション推進 コンソーシアム (有限会社トラスト/株式 会社マイソル)	福岡県	「コ・ワーケーション 事業」による九州の地 域活性化	「スモール起業」と暮らし方の「シェアリングモデル」を掛け合わせた『コ・ワーケーション事業（仕事場と住まいを一体化した シェアハウス：コレクティブハウス）』で、「孤立化」「貧困」「空き家」問題を同時解決。 ・社会起業家コミュニティ「リエートス」を設立（約200名） ・コレクティブハウス「POSTO&Co.（門司港地区）」のリビルトを実現 ・企業とヒトとしごとをつなぐクラウドソーシングサービス「ソーシャルリンクス」を構築
株式会社 よしもとラフ& ピース	沖縄県	沖縄県におけるソー シャルビジネスイン キュベーション推進事 業	沖縄県41市町村におけるソーシャルビジネスの起業支援・普及啓発を目的としたインキュベーション事業「島ぜんぶでうむさんラ ブ」を実施。 ・「島ぜんぶでうむさんラブキャラバン」の実施（1,440件） ・「島ラブアカデミー」でビジネスプラン構築を伴走支援（29組） ・沖縄国際映画祭（延べ3万5,000名動員）で「島ラブ祭ビジネスプランコンテスト」を開催 ・BS放送局「BSよしもと」を開局し、ソーシャルビジネスチャンネルを開設
株式会社ホンジョー	福岡県 /九州地域	『捨てるから創るへ』 医療機器リサイクルプ ラットフォームの事業 化	医療機器等の資産処理について、その有効活用と循環型配慮社会実現に向けてクラウド型資産情報管理システム「デジタル・アセッ ト・プラットフォーム」を構築 ・社会的投資収益率（SROI）の算出方法を確立（北九州市立大学との共同研究） ・資産処理運用の標準化システムの構築 ・久留米大学病院・久留米大学などとコンソーシアムを構築 ・医療用ベッドのリサイクル効果検証の実証実験を実施
WorkStep株式会社	福岡県 /九州地域	ママドラフト会議 for Kyushu Island（九州・ 山口・沖縄広域圏）	潜在就業女性を産業に「つなぐ」タレント発掘プロジェクト。教育機会の提供と人材紹介を組み合わせた復職支援スキーム。 1.女性人材を掘起す ・キャリアコンシェルジュ（地域パートナー）の設置 ・ママボランチ育成講座の開催：270名 ・ママドラフト会議の開催：190名再就職達成 2.女性人材を産業につなぐ ・キャリア支援伴走「WorkStep倶楽部」の開設 ・求人媒体「福岡じよしごと」の開設・運営
株式会社ボーダレス・ ジャパン	東京都 /九州地域	ボーダレスソーシャル バンク	社会起業家コミュニティ「ボーダレスソーシャルバンク」の構築による社会起業家の育成と創出。 ・「ボーダレスアカデミー」で社会起業家を育成 2日間の集中講座（1,000名）、3カ月の起業プログラム（300名） 卒業後の社会起業80名、プロジェクト立ちあげまで含めると100名 ・社会起業家やアカデミー卒業生のコミュニティの設置 ・クラウドファンディング「For Good」を構築（プロジェクト350件、資金調達総額3億円超） ・「For Good」の応援隊として「グッド隊」を組織化（300名） ・京都信用金庫と包括連携協定により無利子・無担保融資のしくみを構築

注)2021年度～2023年度の3年間で事業を実施。

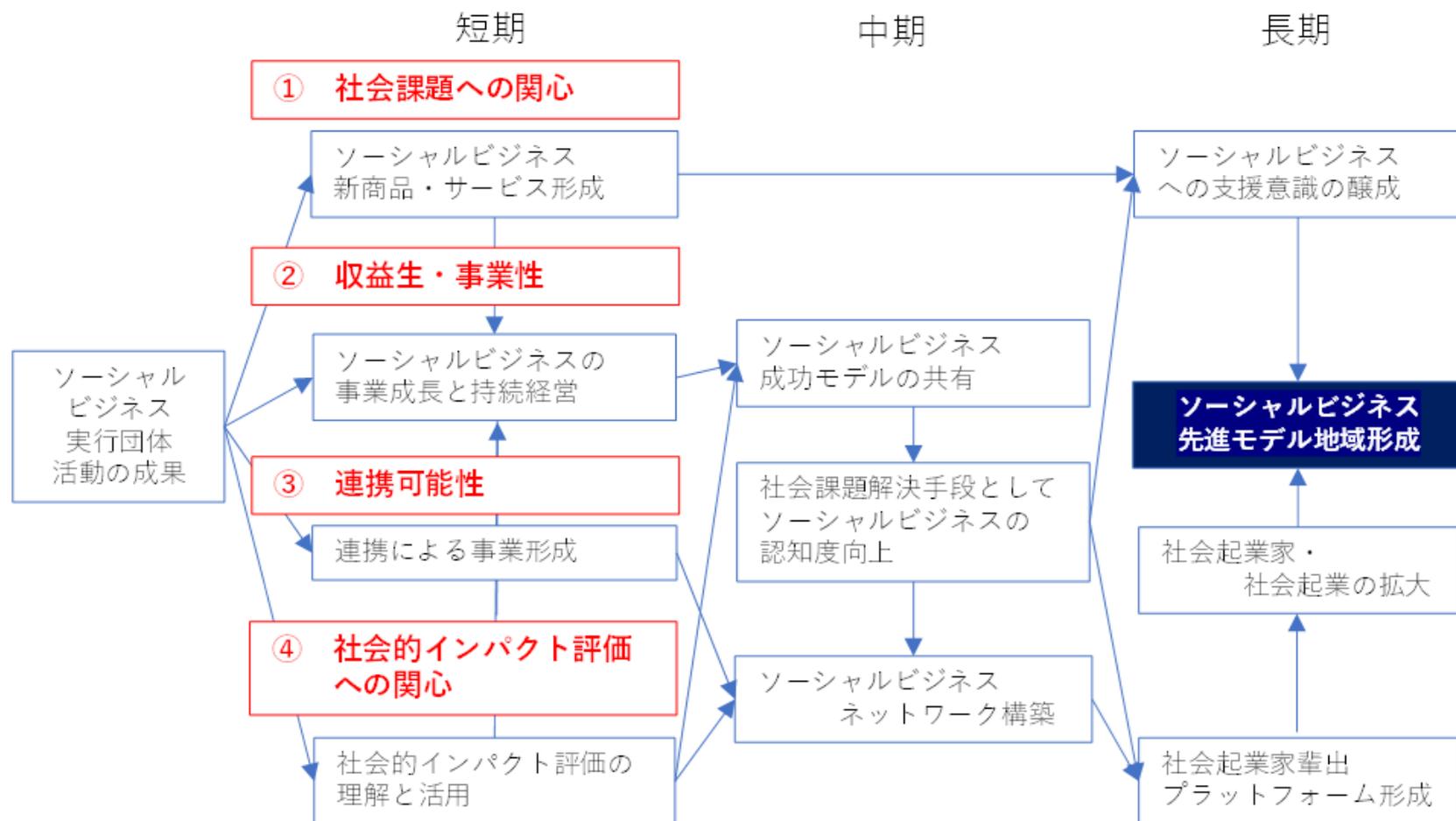
出典)九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム作成

ソーシャルビジネス循環モデル地域形成事業ロジックモデル

長期アウトカム：九州地域がソーシャルビジネスの先進モデル地域となること

アウトプット

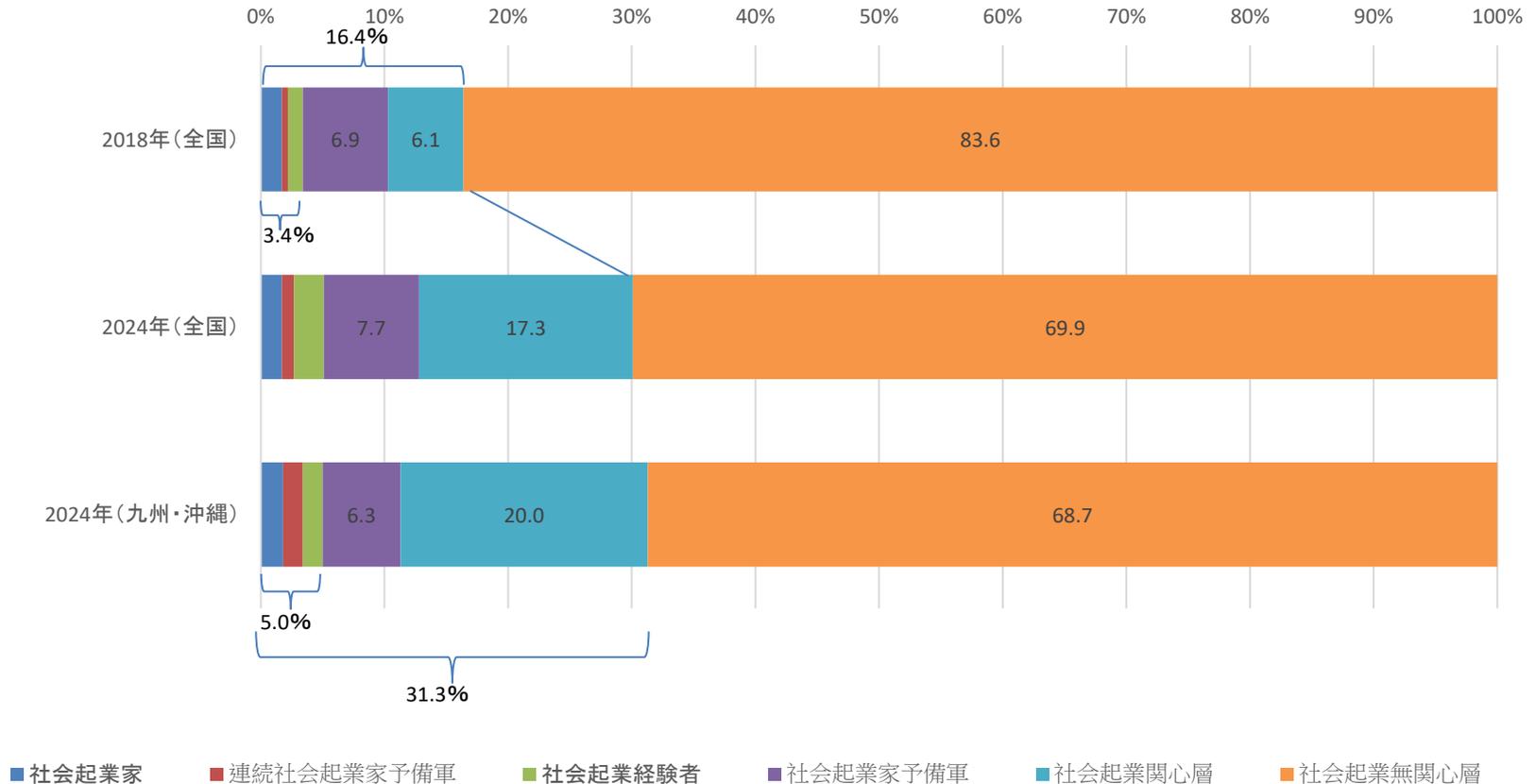
アウトカム



ソーシャルビジネスの現状について

- 九州の社会起業家ならびに社会起業関心層は「31.3%へ」

日本ならびに九州の社会起業家の状況(2024年)



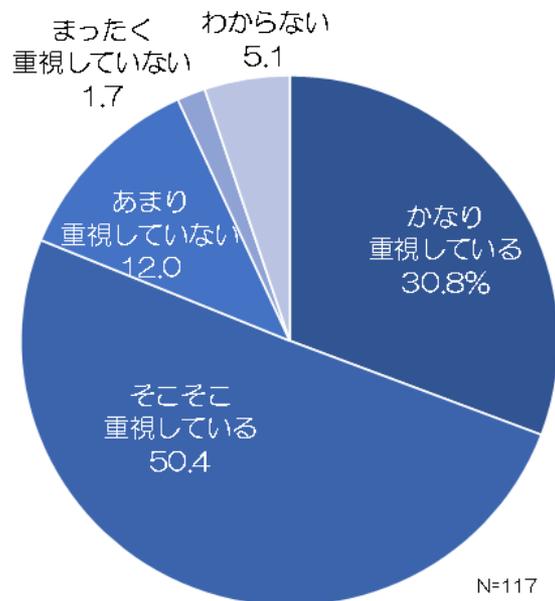
注) GEM調査に準拠。ウェブアンケート

出典) 東京大学中村寛樹研究室「ソーシャル・ビジネスの認知及び需要等調査」2019年、九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム「ソーシャルビジネス全国意識調査(2024年)」

九州のソーシャルビジネスへの期待

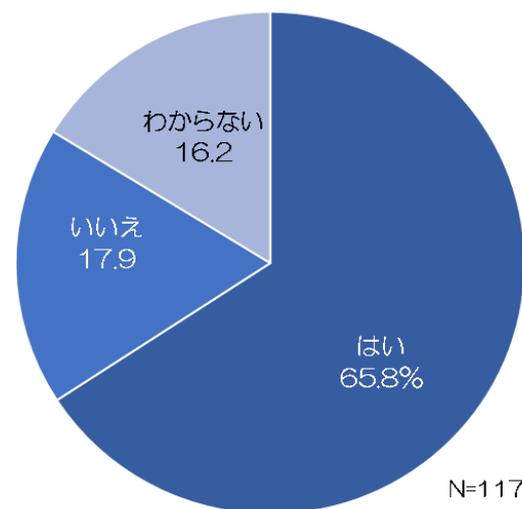
- 九州の地域中核企業は社会課題解決を重要視した経営を展開

本業で社会課題解決を行うことについて



注) 調査対象は、九州の地域中核企業
出典) 九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム
「ソーシャルビジネスに関する民間企業の意識調査(2024年)」

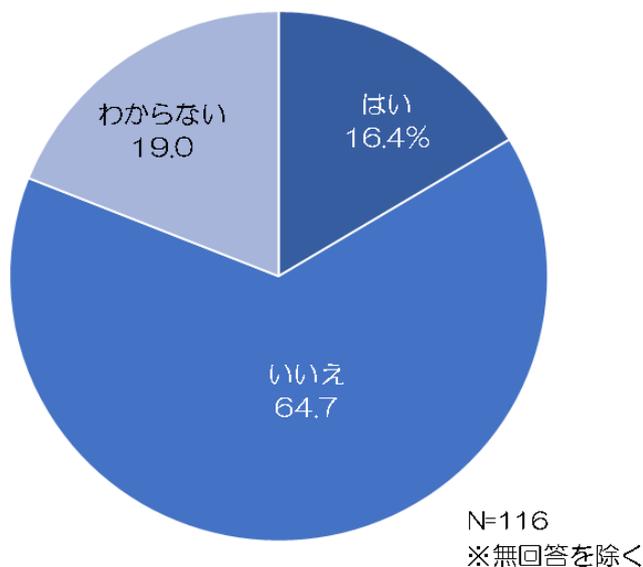
事業目標や計画で社会課題解決を位置づけているか否か



注) 調査対象は、九州の地域中核企業
出典) 九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム
「ソーシャルビジネスに関する民間企業の意識調査(2024年)」

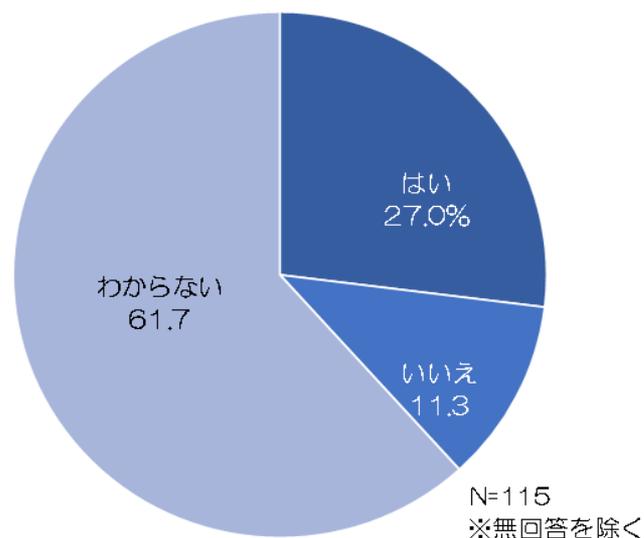
九州のソーシャルビジネスへの期待

ソーシャルビジネスカンパニーと連携をしているか否か



注)調査対象は、九州の地域中核企業
出典)九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム
「ソーシャルビジネスに関する民間企業の意識調査(2024年)」

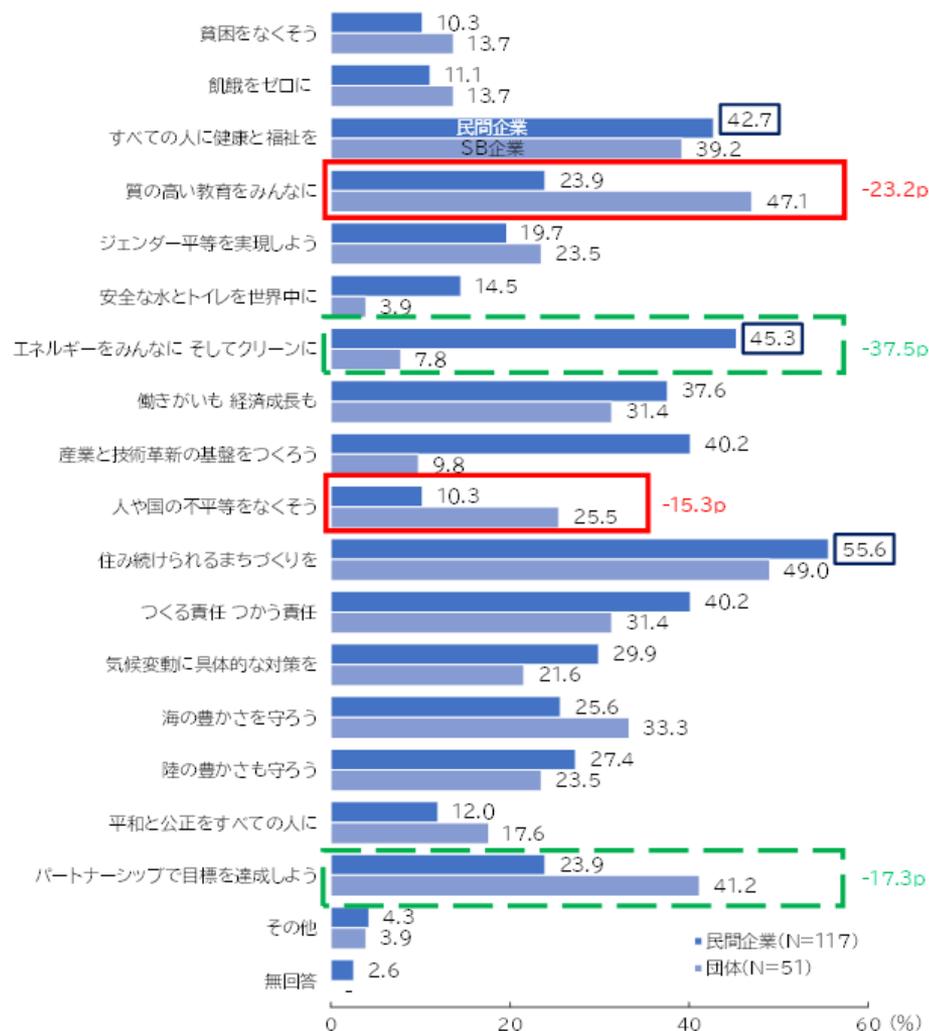
ソーシャルビジネスカンパニーとの今後の連携希望の有無



注)調査対象は、九州の地域中核企業
出典)九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム
「ソーシャルビジネスに関する民間企業の意識調査(2024年)」

九州のソーシャルビジネスへの期待

解決を図りたい社会課題の比較～地域中核企業とソーシャルビジネスカンパニー



出典)九州地域ソーシャル・ビジネスコンソーシアム「ソーシャルビジネスに関する民間企業の意識調査(2024年)」、「ソーシャルビジネス実態調査(2024年)」

社会課題解決を ソーシャルビジネスで